

初めての顔合わせ



車いすプロジェクト

五月の定例会で、プロジェクトチームとして発足した車椅子研究会の第一回の会議が、六月十一日(土)午後五時より大阪市立社会福祉センターの三階第二会議室で十一名の参加者により開かれ、当研究会の今後の研究テーマと、開催日時

の決定がなされました。研究項目としては、

いよいよスタート

一・障害者自身に適した車椅子を、短期間で提供できるための開発。
二・現在市販されている車椅子のあらゆる技術を会員が学び取り、さらに車椅子のデザインも含め、新技術の開発。

三・車椅子と座位保持装置との組み合わせ技術の開発。同、研究開発が出来るまでに早く育ちたいものです。

常にチェック



学習会の様子

一九八〇年にWHOで、障害の状態を決める要素として「国際障害分類」が出き、機能障害、能力障害、社会的不利に分けられています。

能力障害や社会的不利などの状態は、福祉機器の使用である程度なくすることが出来るといわれています。障害も国際的にみると、地域や文化にも影響され、例えば「正座が出来ない」という症状がアメリカでは正座をする必要がないので障害になりませんが、日本

では障害となったり、国によっての違いもあります。病気とかかわっている障害については、障害をみながら、常に病気の状態をチェックしておく必要がある、倒れないように筋力を動かせる必要がない。そこで筋力も衰え、頭の機能も落ちやすく、体力低下の悪循環の末にたどり着くことになるので、

短時間で十分な充実した内容の講義でした。何度も復習し、しっかり頭の中に入れておきたいと思いましたが、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

タイミングも重要

障害と福祉機器について

六月の学習会は、大阪府立大学医療短期大学講師、上田任克先生の「障害について」の講義をお聞きしました。詳しい資料を参考に、やさしく解説してくださり、メンバーは、これからの福祉機器製作に大いに役立てようと真剣に聞き入りました。

同じ障害でも、環境によってその状態は違います。上田先生は、障害の状態に応じてどこを訓練で補うか、どこを福祉機器で補うか、そしてその時期は？「常にチェック」適切なタイミングの重要性を何度も強調されました。福祉機器の製作にあたって、このことを充分に考え、ユーザーについても頭の中に入れておきたいものです。また、脳の動きと運動と神経の流れなど、図解しながらの説明があり、脳の動きのすばやさ、恐ろしさを改めて実感しました。

最後に、寝たきりの状態にふれ、自分で動ける条件をつくるのが大切だということ、横になるという事は、重力をうけるという事は、倒れないように筋力を動かせる必要がない。そこで筋力も衰え、頭の機能も落ちやすく、体力低下の悪循環の末にたどり着くことになるので、

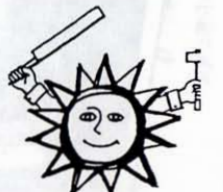
短時間で十分な充実した内容の講義でした。何度も復習し、しっかり頭の中に入れておきたいと思いましたが、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

ハンディをささえるモノづくり通信

福祉機器住宅研究会
問合せ先
大阪市Vセンター
785-4041
制作協力
朝日新聞大阪本社
読者室
電話06(201)8033



五月の学習会から

ベッドを軽量化

五月の学習会は、パラマウントベッド(株)の粕谷修一氏からお話を伺いまし

た。(以下、その内容)

平成四年のベッドの販売数は、一、六五六、六八一

その他に、材料研究、製作

モノづくり勉強会のご案内

福祉機器、補助具製作を前提にした勉強会です。

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

福祉機器、補助具製作を前提にした勉強会です。

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

福祉機器、補助具製作を前提にした勉強会です。

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

福祉機器、補助具製作を前提にした勉強会です。

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

福祉機器、補助具製作を前提にした勉強会です。

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

福祉機器、補助具製作を前提にした勉強会です。

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

福祉機器、補助具製作を前提にした勉強会です。

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

福祉機器、補助具製作を前提にした勉強会です。

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

福祉機器、補助具製作を前提にした勉強会です。

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

福祉機器、補助具製作を前提にした勉強会です。

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

福祉機器、補助具製作を前提にした勉強会です。

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作

その他に、材料研究、製作



付近略図

「住宅改造助成事業」が自治体の単独事業として実施されるようになりまし

その他に、材料研究、製作

事例報告

イレクターで初の試み

床の高低に対応

Uさん(女性)七十五才
入浴がしにくいので浴室の洗い場の床上げをしてほしい。
A 「頸椎後縦靱帯骨化症」という難病であり、また足が不自由である。娘夫婦との三人暮らしで、食事は普通にするが、室内移動が困難で、入浴は一部介助がある。
B O.T. 設計者、製作



床あげされた洗い場

障害にあった手すり

色にも対応

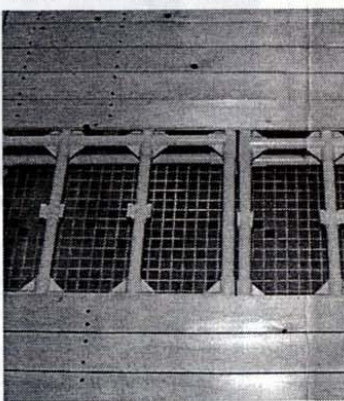
Nさん(女性)七十才
階段および浴室、トイレの外に手すりを付けたい。壁面の材質や構造が分らない。手すりの位置を検討してつけて欲しい。
A 公社分譲のメソネットのため、生活空間



試しに歩いてみる

★解説
A 日常生活状況及び家屋状況
B 解決方法
C 改善後の状況と考察

者の三者でチームを組み、取り組んだ。現場調査時、入口から風呂場床まで下へ約二十センチの段差があり、足が不自由な身には入りにくいという事がわかった。その時点で、娘さん



すのこの下の様子

の二階は、玄関、台所、居間、二階は、本人の居室で、浴室、トイレ、寝室に分かれ移動する時は何かにつかまらなければならぬ。脳梗塞の後遺症で片マヒの上、糖尿のため頻尿なのでトイレには、いざって行っている。

B 本人の動作に基づき、O.T.の江口さんのアドバイスを受け階段、浴室ドア、トイレまわりの手すりの位置を決定。
C 改善の結果、立居に手すりを伝い、用便や移動などが出来、本人にとって使いやすいようである。手すりを木製直徑二十とし、回転しないように工夫。色も落ち着いた茶系にし、インテリアの中に調和するよう工夫した。今後、本人の状況に応じて、手す

の介助で入浴していた。O.T.が「床上げが必要」と判断。製作にかかった床上げは、土台はイレクターを使い、その部分はひのきを貼った。途中の調整に手間だったが、約一カ月で完成、取り付けた。



ポーズはばっちり

有効利用の手すり

ーテレビまわりの空間

Wさん(男性)七十才
室内の歩行のために、室内、トイレ、テレビまわりに手すりをつけてほしい。

車いす自由自在

ー勝手口を拡張

Iさん(女性)八十才
居室から屋外への出入りと、浴室への出入りを車いすで出来るようにしてほしい。
A 両大腿骨折の後、



これで車いすで通れます

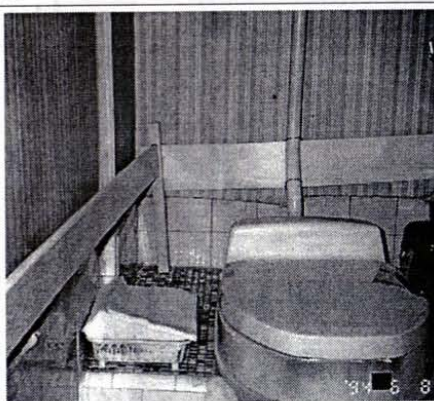
A 外反母指の手術をして退院したばかり。杖歩行、伝い歩きは出来る。市営住宅の二階に在住。
B 更生療育センターの平野O.T.のアドバイスに従い室内に三力手すりを設置したが、本人の動作を考慮した時、どうしてもテレビまわりに、手すり様のものがほしいという事で写真のような枠を制作して、また、トイレに既についてあった手すりは、位置が低すぎて用をなさないので、四年前に脳梗塞を患い、その後遺症で、歩行不可となり終日ベッド生活をしてい

B 現地調査の結果、屋外への出入りは、居室→廊下→玄関→中庭→勝手口通路→屋外へとアプローチを決めた。改良を行わなければならない箇所は、イ・中庭の飛び石や庭木を取り除いて車いすが通れる巾のコンクリートの通路をつける。ロ・勝手口通路の出入口を九百ミリ巾に拡張する。ハ・ロの出入口付近の傾斜をなくす。ニ・浴室の出入口は、車いすの通れる巾(八五〇ミリ)に広げ、室内側に小さなスロープをつける。これ等の施工は、

苦心の手すりとりつけ

三方がベニヤ板

Oさん(女性)七十九才
天井の穴からネズミが入り込んで困っている。穴を塞いでほしい。またトイレに手すりがかほしい。
A 生まれつきの四肢マヒ身障一級。両手に杖を持して室内を移動。身長が低いので、流し、洗濯機、洗面所の前に踏み台を置いている。
B 天井のガス管を通す穴をかじって、そこからネズミが入り込んでくるらしい。天井板には釘を打てないのでベニヤ板を接着剤で貼って、下からつかえをして一昼夜おいた。トイレの手すりは、十センチ巾、一セ



苦心の手すり完成

本人の動作に基づき、位置を決め、手すりを設置した。
C 取りつけた手すりとは杖で室内の歩行は可能のはずだが、妻の話では、余り歩こうとせず、這って移動している由。他人が言うに愛想がよいので、今後は第

C 完成後家族の方から、施工会社及び研究会に、大いなる感謝の言葉をいただいた。
★事例報告の関覧について
事例報告の詳細(図面など)については、会員に限り閲覧できます。
事務局へお申し出下さい。

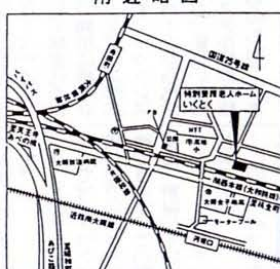
定例会のお知らせ

★場所 特別養護老人ホーム「いづみ」

★テーマ 見学会

「いくとく」付近略図

附近略図



ちょっと情報

阿部野区天主町北三十八十八
733-1165
★主催 大阪在宅ケア研究会
★主幹 大阪在宅ケア研究会
★分科会 一・看護・リハビリと在宅改善 二・デイサービスな在宅支援の拠点としての展開を 三・訪問看護を根づかせるために★シンポジウム「生活支援と地域ハブ」多くの人の関わりの中で★記念講演「これからの地域ハブリテーション」講師・兵庫県立総合リハビリテーションセンター所長澤村誠志氏★参加費 三千元(昼食代・千円★問い合わせ先)羽曳野市羽曳野三の七の三〇〇七九一五〇一二二大阪府立看護大学内大阪在宅ケア研究会事務局